

あきざわ ゆきあつ

ヒーローズ エデュテイメント 会長 **秋沢 志篤氏** ④

## わが道

## わが友

千葉ロッテマリーンズのポビー・バレンタイン監督と出会ったのは、私がエーエム・ピーエム・ジャパンの社長を務めていた平成10年のことだ。

それは「日本でメジャーリーグの開戦をやりたい」という思いからだ。それまで日本で見られる大リーグといえは、秋の出稼ぎ試合ぐらだったので、本物のガチンコ試合を見たいと思ったのだ。

ニューヨークに行き、メジャーリーグ関係者とも2年越しの交渉にあたった。その時のニューヨーク・メッツの監督がポビーさんだった。いろいろな難関を乗り越えて、開幕戦が12年春と決まったのは11年初冬。「日本初のメジャーリーグ開幕戦のスポンサードをする」と言うのと、社内でもよめきがおこった。この感覚は、きっと一般人にも共通する。私はこうした感覚を大事にしている。

すぐに東京で記者発表会を開いた。私が少し遅れて会場に行くと、壇上に並んでいたポビーさんが私に敬礼してくれた。それを見て、私はビビッときた。私のことを覚えていてくれたのだ。以来、心を許しあえる友人としてお付き合いをしている。

ヒーローズエデュテイメントを設立して「心拓塾」を開講する時も、ポビーさんに相談した。彼がアドバイスしてくれたのは、塾が養成するリーダーに求められる資質の一つとして「チャレンジスピリッツ」を掲げることだった。「日本の野球選手はうまいし華麗だけど、競争に立ち向かう力強さに、かなりの物足りなさを感じる」という理由だった。

振り返れば、私が生まれて初めて渡米した昭和61年、ニューヨークに着いた時にちょうどメッツが優勝し、祝勝パレードの紙吹雪で迎えられた。メッツはその時から忘れられない存在だ。

渡米したのは、石油業界に規制緩和の波が押し寄せる中、共同石油(現ジャパンエ

ナジー)が生き延びるために新たな業態を開発するように、当時の長島一成副社長(後に社長)に命じられたからだ。机の上でそんな開発ができるなら、サラリーマンなんかやっています。業態開発の実例を海外に学びたい」と言ったら、長島さん

は米国と、さらに欧州も視察させてくれた。その結果、私が出した結論がコンピニ事業への参入だった。後に「am/pm」は独自展開することになるが、当初はガソリンスタンドに併設することでスタンドの集客アップを図る考えだったのだ。

平成15年には、伝統ある日米民間親善団体の在ロサンゼルス日米協会からうれしい知らせを受けた。私に「国際市民賞を贈与する」というのだ。この時の米国側の受賞者はロサンゼルス・ドジャース元監督のトミー・ラソーダさん。授賞式はなんとドジャー・スタジアムを開放して行われた。来年、この協会は100周年を迎える。

## 大リーグ開幕戦を機に親友に



在ロサンゼルス日米協会の国際市民賞授賞式でトミー・ラソーダさん(左)と  
平成15年5月、ロサンゼルス